

リーダーの「5つの能力」・まとめ

1. 「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」

右掲は、あるセミナーのPR文にあった「リーダーの5つの能力」です。この5つの能力について、私が講師をするとした場合の論点を書いて来ました。さすがに、自分の考えた「5つの能力」ではないので、結構、難しい面が多々ありました。これらを通して言えるのは、これらの能力は必須であり、これから身につけると言うのでは難しいものだという点です。

リーダーの「5つの能力」

- 1) 段取り力
- 2) 捌き力
- 3) 質問力
- 4) 巻き込み力
- 5) 先読み力

私は、これらの能力は「組織」という環境によって引き出されるものと考えています。個人の資質によるところが多いにしても、組織的に個人の能力を引き出すという面、すなわち、先輩から見習うという要素が多いように思います。そういう意味では、余り耳にしないかも知れませんがフォロワーシップが重要と思うのです。先輩のリーダーシップに従う中で経験を積んで「知識・経験・根性」の3拍子を磨く訳なのです。異端児のように、先輩に反発ばかりしている方は、結局、自分がリーダーになった時には「異質な環境」が出来上がっているのです。部下の方も他のリーダーと比較してしまうのです。「異質な環境」に将来性という「夢」に満ちているならば、部下もついてくるのですが、単に反旗を翻したような場合では、部下は距離を置いてしまうのです。「能あるタカは爪を出せ」と言いますが、爪の出し方を間違えると周囲から異端児として村八分にされかねないのです。

そこで、私が船井先生の言葉から教わった事をご紹介して「まとめ」としたいと思います。

2. 「時流適応力相応一番主義」

まず、「時流適応力相応一番主義」です。リーダーとして必要な事は「時流」を掴む能力もその一つと言えます。「時流」とは、10年先というような長期的展望に立った流れなのです。例えば、10年後の仕事はこのように変わっているという予言のような物も重要ですし、10年後の地域経済はどうなっているかを予測する能力も重要になります。

「時流」に似た言葉に「流行」があります。多くの人は、この流行を追っているのです。例えば、日本経済新聞を読んでみると「今、流行っている事」に踊らされるように成りがちなのです。TVの番組でもWBS(ワールド・ビジネス・サテライト)がありますが、この番組ばかりで情報を得ている人が結構多いのです。番組を通して見ていると「流行」ばかりではなく、それらを通した「時流感」も見えてくるのですが、どちらかと言うと「流行」に流され易いように思います。こんな情報は「話題」として活用できても「時流感」としての判断基準にはならないのです。

そこで重要なのが「力相応」に「時流適応」する事なのです。「これからはこのようになる」という時流感を持ったとしても、一挙に変わるものではないのです。「保守8割、革新2割」と言うのですが、現実のことに8割の時間を割いて完遂しながら、残りの2割の時間で新しいことに取り組む事が重要なのです。1日10時間働くとする、8時間で日常仕事をこなして、2時間を新しい事柄にチャレンジするように時間配分するのです。例えば、週5日制とする、4日は通常の仕事をするが、残り1日は部下と飛び込み訪問をするとか、セミナーなどに出かけて勉強するなどの工夫が必要になるのです。こんな「やり方」が難しいかも知れませんが真の「力相応」と思うのです。

そして、何よりも「一番」ということにこだわる気持ちを養うことが重要なのです。リーダーは「力相応一番主義」と言っても、本来は絶対的な一番を目指す向上心に欠けるといい加減になってしま

うのです。「力相応」なので低いレベルな一番でよいというのではないのです。「いつかは・・・」という大きな志が重要なのです。リーダーに「大志」がないと部下から見て魅力に欠けるタダの「いい人」に終わってしまうのです。「いい人」は好かれやすいですが、組織はマンネリ化して「寄生虫」のような集団になりかねないのです。

3. 「素直プラス発想勉強好き」

また、船井先生は「素直な方がよい」とおっしゃっています。確かに、人にはいろんなタイプがありますが、「素直」という特性を持った人は他人に可愛がってもらえるように思います。「素直」の反対を「偏屈」とするとよく分ると思います。「偏屈」な人でも資産家であれば、資産の魅力で人は寄ってくるかも知れませんが、同じ条件なら「素直」な人の方が好ましいと思うのは人情と思います。

さらに、「プラス発想」できる人がよいと船井先生はおっしゃっていますが、当然と思います。何事も物事がスナナリと進むという事はマレであり、多くは競争下で挫折との戦いなのです。「一生折れない自信づくり」というセミナーもあるようですが、カラ元気では不十分なのです。「なにくそ」という反発心が重要なのです。「こけてもタダ起きない」という「貪欲性」が重要なのです。このような「プラス発想」が人を大きくするのです。

最後の「勉強好き」は、「知識・経験・根性」という3本柱のうち、最初の知識を得ることも重要なのですが、「知識」だけではうまく行かないのです。確かに、「知っている」ことが多い方が望ましいのですが、その実践力が重要なのです。実践を通して得た「経験」こそが財産なのです。私は、船井先生の「勉強好き」は、「知識」⇒「実践」⇒「経験」という過程を通して「やり抜く」という「根性」が備わることも含んでいると考えています。

4. リーダーに最も重要な能力は「人間力」

「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」、「時流適応力相応一番主義」、「素直プラス発想勉強好き」と書いて来ました。どれも重要な要素なのですが、それらを通して言えるのは「人間力」という言葉なのです。いかにも漠然とした言葉なのですが、その人からにじみ出る「人柄」が重要なのです。それは、魅力でもあり、また、実行力というパワーであったり、人情というやさしさであったり・・・いろんな要素の積み重なりなのですが、やっぱり「人間力」というものがあるのです。

私は、実行力に裏づけされた「人情」味が「人間力」の要素と思うのです。大金持ちでも「人情」に欠けると「人間力」は「金」のパワーに依存したものになってしまうのです。これでは、寂しいリーダーとなってしまいます。確かに、何かに優れていないとリーダーの資格はないのですが、その上に、「人情」という物があると「鬼に金棒」なのです。

【まとめ】

1. 「フォロワーシップ」は良いリーダーの前提条件
2. 「時流適応力相応一番主義」・・・「大志」が重要
3. 「素直プラス発想勉強好き」・・・「やり抜く根性」
4. 「人間力」には「実力」と「人情」の両面が重要

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryo.html> でご覧になれます！】